

## 平成23年第3回定例会（9月）一般質問

### （3）地域防災組織強化に向けた施策および支援について

○ 議員 宮下 裕美子 3点目の質問です。地域防災組織強化にむけた施策及び支援についてです。地域防災組織の重要性は、これまでの一般質問で何度か行って確認済みです。現在、月形町では補助金制度があって、行政区での取り組みを後押しするため、昨年度から3年間の計画で、防災活動を行った行政区に対して補助金が支給されています。この補助制度により、各行政区では防災訓練や名簿作成など積極的に取り組んでいると聞いていますし、私の住居地の行政区でも様々な取り組みがされています。

これとは別に今年3月東日本大震災の発生で、町民を含めた国民全体の意識の変化が見受けられます。備えや地域防災組織の必要性を強く実感しているものと考えます。しかし、実際の場面を見ると地域防災組織を行政区が独自に構築していくには非常に難しい場面があります。災害時、地域で活動できるのは、どこかの組織に属している人ではなく、一般町民、特に高齢者や女性、児童・生徒により地域活動がなされる実態を考えた時、防災知識を持った指導者あるいはリーダーが必要であると考えています。

そこで町長に質問します。社会状況、補助制度などにより町民の防災意識は高まっているものの、それを形にするには今一段の対策が必要であると考えていますが、今後の地域防災組織の強化をどのように考え、対応していくのでしょうか。

○ 議長 笹木 英二 町長。

○ 町長 櫻庭 誠二 月形町の形態を考えた時に昭和50年には石狩川堤防の一部が越流する状況で市街地に相当の床上浸水があったことも事実ですし、その時は自衛隊も含めてボランティア組織の救援、復旧の手助けがあって、現在の私たちの町があると思っていますが、役場職員の中で昭和50年の災害を経験しているのは土橋副町長ただ一人という状況があります。そのことが風化していくことが一番怖いと思っておりますし、3.11の東日本大震災においても、昭和6年に大津波があってその時の教訓を生かした所とそれを忘れてしまった所では、地域によっては被害に大きな差が出ているということも多くの震災検証の中で学ばせていただいたところでもあります。ご指摘のとおり災害にはしっかり対応して行かなければならないものと考えています。昨年、町として総合防災訓練を行いたいということで方針にも打ち出していましたが、北海道開発局が6月に石狩川左岸旧北村堤防地において水防訓練を行うということがあり、その時に消防団長が「一年のうちに二つの行事をやることは消防団としても厳しいので、来年にしてもらえないか。」ということで、

中止にした経過がございます。また9月4日については、岩見沢地区連合消防団演習を実施する予定になっていましたが、皆さんご記憶のとおり9月2日から5日にかけて集中豪雨があつて防災訓練をやっている暇がないということで、これについても中止せざるを得なかったところでもあります。東日本を含めて私たちの団体が岩見沢地区消防が北海道の災害派遣隊の第二次と第七次で東北に災害支援に行きました。私たちの隊区である美唄駐屯地についても180名の隊員が1か月半程度の復旧活動に出ています。北海道開発局でもっているテックホース災害派遣隊にも136名載っていますが、この人たちがすぐ現地に赴き災害復旧に関わったという状況を考えた時、今私たちのまちで一番怖いのは、石狩川堤防がかさ盛りになってこれが越流を破堤した時には、50年当時とは比較にならない大災害になる可能性があるということです。組織との連携を密にしていくということは、今後はより重要であるということ、今回の3.11から学ばせていただいたところでもあります。地域としての防災活動も重要なことでもありますし、宮下議員発言のとおり、昨年から交付金の中に防災活動補助金ということでもらせていただきましたが、まさしく地域の中で中核となって防災、復旧活動をやってくれる人たちがいるべきであると考えていますので、ありがたいご提案をいただいたと考えておりますので、それについてはしっかり取り組んで行きたいと思っております。特に町民の皆様には数年前に配付した防災ハザードマップの中で、洪水被害が可能性の高いまちと色塗りされてはっきり分かっていることですから、そういうところについては、特に指導者を含めた育成についてもやっていきたいと思えます。

○ 議長 笹木 英二 宮下裕美子君。

○ 議員 宮下 裕美子 まだ、提案はしていないのですが、知識を持ったリーダーや指導者が必要であると考えているということに対して、町長も指導者の育成が重要であるということだったので、地域にとってどんな指導者、育成方法があるのか提案したいことがありますので、いくつか具体的な例を挙げさせていただきます。

昨年、市南行政区で防災訓練を行った時に江別市の消防あるいは江別市役所に協力していただき、防災ファシリテーターを派遣していただき、その方はDIG(ディグ)という災害図上訓練の一手法をその第一人者である道教育大の佐々木先生から直接指導を受けて資格を取った方々に講師としてきていただき、町民の方々に防災の心得あるいはどのようなことが必要かという講義をしていただき、町民からも満足であるという言葉いただきました。防災ファシリテーターの養成は長期間の時間を要しますし、ある程度の費用も掛かりますが、防災に興味のある職員あるいは町民の中でもまた消防団員などから養成してはどうかと考えます。

民間の資格ですが、防災士というものがあり、これは民間団体がやっているものですが、防災全般に対して2日から3日の日程で全国数か所で毎年開催されていますが、講習費が約6万円の費用が掛かります。基本的な知識を系統立てて学ぶことができるので、このような方々が地域にいることによって、次の事業展開ができるのではないのでしょうか。そこで資格取得のための補助金制度などを設けてはどうかと考えます。

もう一つ、約半年前に起きた東日本大震災ですが、月形町からの職員派遣は現実にはできなくて、現地の様子を町の行政活動に生かすことは直接的にはできませんでしたが、民間の方々がボランティアとして現地に行った方が何名かいます。現地で活動された方々が目にした現場の様子あるいは問題点や課題などを、町民を集めた中の講演会という形態の中で町民全体に情報と経験を共有・活用できるような場面を設けてはどうかと考えていますが、これらの提案について町長のご意見をお伺いします。

○ 議長 笹木 英二 町長。

○ 町長 櫻庭 誠二 最初の資格の部分については、積極的に取り組むという答弁のとおりであります。民間団体を含めたボランティア活動の講演会をやってはどうかということですが、これについては民間団体だけでなく、例えば美唄駐屯地の司令はその関係についての記録をしっかり持っていますので、そこに要請すればしっかりしたこともできると考えていますので、要請をしっかり受け止めてくれる団体が必要ではないかと考えております。私たちでやることもやぶさかではないし、やりましょうということについては、去年ももう一点、同じような災害の質問があった時申し上げたことは、奄美大島の「結」という日頃の町内活動の人と人のつながりが、災害に対して極めて有効だったということで、勿論資格も大事なことですが、今、希薄に成りつつあると言われていた社会情勢の中で、地域町内会をしっかり、もう一度人とのつながりについて、この活動を通して重要な位置付けとして行きたいと考えていますし、昨年の老人クラブ連合会の総会に出席した時に、市南地区の方から実は2か年に渡って防災訓練をやっているからこれを老人クラブ連合会でやってはどうかという発言があり、今年老人クラブ連合会が防災学習会を開いております。このように一つひとつのつながりが大きく前進していくと考えていますので、積極的に取り組んで参りたいと思っております。

○ 議長 笹木 英二 宮下裕美子君。

○ 議員 宮下 裕美子 資格取得等については積極的に取り組んでいただけるということで、ぜひお願いしたいと思っております。

それから民間団体だけでなく美唄駐屯地の司令のことを言っていました、組織の方々のお話を聞くことも一つの方法ですが、先ほどから問題にしているのは、組織にも属さな

い実際に災害時に地域で活動する一般町民のことです。特に高齢者や女性、児童・生徒が防災訓練を身近に感じて、その人たちの意識が高まってくる、あるいはスキルアップするためには、勿論、組織の長の方が組織としての実践を話すことも一つですが、それ以上に民間ボランティアとして参加した、ごく普通の町民の方々の講演会が必要ではないかと考えています。

それから「結」のお話をされていますが、それも重要であると思いますが、その点については一般町民のつながりをいかに大事にするのかということは認識していますし、様々な手法は過去に月形町も十分なつながりがあった中でできていますから、過去に回帰することで取り組むことができると思いますが、地域防災組織を作り上げていく段階においては、防災の専門知識があって、体系的に防災を組み立てていく力がないとできないのです。その部分が今不足していると考えますし、その部分については人を養成するという事なので、多額でもお金が掛かることですから、その部分の支援を組み込んでいただき次に進んでいくべきと考えます。地域の核となり総合的に構築できる人材の育成について補助など積極的に関わることを、今後どのように行政の事業に取り入れていくのか、お答えいただきたいと思います。

○ 議長 笹木 英二 町長。

○ 町長 櫻庭 誠二 最初の答弁でそれについてしっかり取り組むという答弁をしたつもりであります。